

清水庁舎整備5案提示

静岡市 大規模改修や建て替え

静岡市は31日、新型コロナウイルスの影響で凍結している市役所清水庁舎整備の方向性をまとめた最終報告を公表した。想定される整備パターンとして、現庁舎の大規模改修や現地建て替えなど五つの選択肢を示した。

清水庁舎を巡っては、移転予定地のJR清水駅東口公園に地域医療機能推進機構(JCHO)が運営する桜

ヶ丘病院の移転が決定。市はコロナ禍の社会変化などを踏まえ、2022年度中に新たな方針を示すとしている。

最終報告では建て替え(新築)パターンとして東口公園移転、新たな土地確保、現地建て替えの3案、改修(長寿命化)パターンとして現庁舎大規模改修と別施設移転改修の2案をそれぞれ提示した。東口公園

への移転新築については「建築可能面積が大幅に減

少したことなどから当時の想定と条件が変わってきている」と明記したが、移転の可能性は排除していない。

市は4月にも有識者や公募市民らでつくる庁舎整備検討委員会を立ち上げ、整備方法などを本格的に検討する。(政治部・森田憲吾)